昨年度における大学院生業績

加藤ゼミ

・高木駿

(1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書

- 1) 高木駿, 「趣味判断『このバラは美しい』に関するカントの自己矛盾?」, 『美学』第 248 号, 美学会, pp.13-24, 2016 年.
- 2) 高木駿, 「趣味判断における快の感情の生成—『認識一般』からの捉え直し」, 『日本カント研究』第 17 号, 日本カント協会, pp.157-171, 2016 年.
- 3) 高木駿, 「『趣味の主観主義』を拡張する—『判断力批判』における『認識一般』を導き糸に一」, 『哲学論集』第 45 号, 上智大学, pp.73-88, 2016 年.
- 4) 高木駿, 「趣味判断が誤るとき:『判断力批判』における情感的意識の観点から」, 『美学』第 250 号, 美学会, pp.13-24, 2017 年.

(2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説

(学術雑誌における翻訳)

- 1) ヨハン・ゴットリープ・フィヒテ／高木駿訳, 「1807 年ケーニヒスベルク知識学」, 『フィヒテ全集』第 14 卷 (大橋容一郎監修), 哲書房, 2016 年.

(3) 国際会議における発表

(4) 国内学会・シンポジウム等における発表

(招待講演)

- 1) 高木駿, 『超越論哲学としての『判断力批判』』, 科学研究費 基盤研究(C)「超越論的論証:その本質と発展可能性」平成 28 年度公開研究会, 早稲田大学, 2017 年 2 月.
(口頭発表)
- 2) 高木駿, 「カントの趣味判断と多元主義—理論的領域における展望」, 上智大学哲学会第 84 回大会, 上智大学, 2016 年 6 月.
- 3) 高木駿, 「カント美学とヘノロジー—『判断力批判』における「情感的意識」を契機として」, 第 2 3 回新プラトン主義協会大会, 名古屋工業大学, 2016 年 9 月.
- 4) 高木駿, 「カントを趣味のエリート主義から真に解放する」, 第 8 回新規環境美学研究会, 東京工芸大学, 2017 年 3 月

・那覇泰輔

(1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書

- 1) 那覇泰輔, 「ハチ公像が時代によってどのように表象されたのか:戦前と戦後以降のハチ公像を比較

して、『年報カルチュラル・スタディーズ』、カルチュラル・スタディーズ学会、VOL.2、pp.85-99、2014年。

(2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説など

(3) 国際会議における発表

1) NABA, Taisuke, “Transformation in the Meaning of Generation in Japan: The Combination of Generation and Culture in the 1930s”, The 16. Hitotsubashi International Conference on Philosophy/Social Philosophy, Hitotsubashi University, Kunitachi, June 2016.

(4) 国内学会・シンポジウム等における発表

1) 那波泰輔、「なぜ1940年代にできたサークル「山脈の会」が今も続いているのか—戦争体験の固執から」、『カルチュラル・タイフーン2014』、カルチュラル・スタディーズ学会、府中市、6月・2014年。

2) 那波泰輔、「地域における軍用施設に対する住民の意識の変化—東京都北区を例として—」、『第89回日本社会学会』、日本社会学会、福岡市、10月・2016年。

3) 那波泰輔、「米軍王子野戦病院反対運動における「反対」の諸相」、『第6回地域ベ平連研究会』、地域ベ平連研究会、新宿区、11月・2016年。

・横山陸

(1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文

1) Yokoyama, Riku, “Liebe als Kommunikationsform in der Intimität”, *Thaumazein*, Rivista Di Filosofia, Vol. 3, pp. 365-382, Verona, Italy, December 2016.

(2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説など

(3) 国際学会における発表

1) Yokoyama, Riku, “Selbstgebung und das Heilige in Max Schelers Religionsphänomenologie”, Workshop: Selbstgebung und Selbst-Gegebenheit als religionswissenschaftlich, phänomenologisch, metaphysisch, soziologisch, indologisch, sinologisch, psychoanalytisch und literarisch relevantes Prinzip, Sils Maria, Schweiz, September 2016.

2) Yokoyama, Riku, “Zur Aktualität der Wertethik Max Schelers”, A Colloquium in Commemoration of the 100 Year Anniversary of the Publication of Scheler’s Formalism in Ethics: Max Scheler, His Thought and Influence, Maynooth, Ireland, November 2016.

(4) 国内学会・シンポジウム等における発表

1) 横山陸、「『研究倫理』は誰にとっての『倫理』であるか?」、第17回一橋哲学フォーラム、一橋大学、2016年4月。

2) 横山陸、「マックス・シェーラーにおける『感情の哲学』」、日本現象学会第38回研究大会、高千穂

大学, 2016年11月.

大河内ゼミ

・太田浩之

(1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文

(2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説など

(3) 国際学会における発表

(4) 国内学会・シンポジウム等における発表

1) 太田浩之、「アダム・スミス『法学講義』Aノートにおける状況分析と正義論・行政論についての考察」、東京唯物論研究会四月定例研究会、法政大学、2016年4月。

2) 太田浩之、「アダム・スミス『法学講義』における自然概念」、第41回社会思想史学会、中央大学、2016年10月。

3) 太田浩之、「アダム・スミス『道徳感情論』における自然神学」、第20回一橋大学哲学・社会思想学会、一橋大学、2016年11月。

森村ゼミ

・増永菜生

(1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文

(2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説など

1) 共訳 藤崎衛（監修）「第一リヨン公会議（1245年）決議文翻訳」『クリオ』30号、2016年、100-127頁。

2) 増永菜生「書評 松本典昭著『メディチ宮廷のプロパガンダ美術』」『史林』99号、4巻、2016年。

3) 増永菜生「紹介 Isabella Lazzarini, Communication and Conflict: Italian Renaissance Diplomacy in the Early Renaissance, 1350-1520」『史林』99号、2016年。

4) 共訳 藤崎衛（監修）「第二リヨン公会議（1274年）決議文翻訳」『クリオ』30号、2017年、123-147頁。

5) 共著 笈川侑也、櫻田宗紀、藤田風花、増永菜生「書評 服部良久編著『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史—紛争と秩序のタペストリー』」『史林』100号、2巻、2017年。

(3) 国際学会における発表

(4) 国内学会・シンポジウム等における発表